第 13 回　全日本少年春季軟式野球大会日本生命トーナメント沖縄県予選
第 7 回　島田叡杯争奪沖縄県中学校軟式野球大会要項

１．主　催　　沖縄県野球連盟

２．主　管　　沖縄県野球連盟

３．特別協賛　　日本生命保険相互会社

４．後　援　　恩納村教育委員会、八重瀬町教育委員会、南城市教育委員会、北谷町教育委員会

５．期　日　　令和 3 年 10 月 23 日（土）～ 24 日（日）予備日　日（土）（日）　開会式：無し

６．会場　　23 日：1・2 回戦 9：00 開始
（ONNA 赤間ボールパーク・うんな中学校・東風平中学校・玉城野球場・桑江中学校）
24 日：準決・決勝 9：00 開始（桑江中学校）

７．参加資格 (1)沖縄県内の中学校に在籍する 1･2 年生の生徒で編成されているチームで各地の代表となったチームとする。なお、1 校 1 チームとする。
(2)硬式ボールを使用球としている団体に所属しているチームとその構成員の出場は認めない。
(3)1 チームは選手 20 名、監督 1 名、コーチ 2 名、記録員 1 名の計 24 名以内とする。
(4)選手の引率、監督は出場校の校長・教職員・部活動指導員とする。教員以外のコーチについては学校長が認めた者で、地区・県に登録された者とする。但しベンチ入りについては 1 名とする。
(5)参加資格の特例を認める。「開催基準 8(6)複数合同チーム」
(6)県・地区中体連の規定及び各学校の規則に沿った中学生らしい身なり・容姿で参加する。
(7) 九州･全国大会への代表権を獲得した場合は、県代表としての自覚と責任を持ち、九州大会･全国大会へ参加できる学校であること。

８．　出場チーム　　県内７地区代表１６チーム

地　区	国　頭	中　頭	那　覇	久米島	島　尻	宮　古	八重山	計
割当数	３	５	３	１	２	１	１	１６

９．競技規則　(1)2021 年公認野球規則及び全日本軟式野球連盟競技者必携、本大会競技規則･特別規則に則って行う。
(2)競技方法はトーナメント方式とする。
(3)試合は 7 回戦とし、得点差によるコールドゲームは 3 回以降 10 点差、5 回以降 7 点差とする。また、日没、降雨のコールドゲームについては全試合 5 回以降成立とする。日没・降雨などで試合が成立しない場合は、特別継続試合を適用する。試合時間の制限は行わない。
(4)7 回を完了して同点の場合は、タイブレーク方式とする。継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁の走者とする。すなわち 0 アウト一・二塁の状態にして、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決するまで続行する。
※天候の都合で日程変更がある場合は、本部で協議の上、特別ルールを設定する。
(5)背番号は 1～20 番を使用し、原則としてポジション順とする。
(6) 投手の投球制限及び試合のスピード化に関する事項についてを適用する。

10．使　用　球　　全日本軟式野球連盟公認内外ボールM号球とする。

11．組み合わせ　　令和 3 年 9 月 30 日（木）第 2 回執行委員会において本部抽選により決定し、後日、沖縄県中学校野球専門部 HP（https://okifffbb.web.fc2.com/）にて発表する。

12．表　　彰　　(1)優勝校には優勝旗、島田叡杯（持ち回り）、優勝盾、賞状を授与する。
(2)準優勝校には準優勝盾、賞状を授与する。
(3)3 位表彰も行う。

13．参加申し込み (1)出場資格を得たチームは、沖縄県中学校野球専門部 HP（https://okifffbb.web.fc2.com/）より所定の大会申込用紙に必要事項を記入し捺印を受け、大会参加料 1 万円を添えて原本 1 部、コピー２部を 1 回戦当日の 10 月 23 日(土)に球場長へ直接持参する。

13．旅費宿泊費　本大会における旅費・宿泊費はすべて参加チームの負担とする。

14．その他　　(1)チームの責任は、引率者において、一切負うものとする。
(2)大会出場中の選手の傷害は、大会本部において応急処置を行い、後は各学校で処理する。
(3)大会参加の際、健康保険証を持参すること。
(4) 優勝チームには文部科学大臣杯全日本少年春季軟式野球大会全日本生命トーナメント全国大会への出場資格を、準優勝チームには第 3 回九州少年軟式野球大会への出場資格を与える。

第 13 回全日本少年春季軟式野球大会日本生命トーナメント沖縄県予選　特別規則

１．試 合 時 間　　試合は１時間３０分と計算し、その６０分前までには集合する。

２．オーダー交換　(1)オーダー用紙は大会本部の用紙を使用する。（５部提出）
(2)攻守決定は、前の試合の４イニング終了時（第１試合は試合開始４５分前）に監督立ち会いの上、主将が行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。

３．ダッグアウト　(1)抽選番号の若い方を１塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動しない。登録された監督、コーチ、選手、記録員以外のベンチ入りは禁止する。
(2)ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止。
(3)ダッグアウト内でのメガホン使用は監督、コーチのみとする。（ベンチ内１個とする。）

４．シートノック　(1)シートノックは、１回戦と準決勝のみ後攻より行う。時間は５分間とする。但し、天候の理由からシートノックを行わない場合もある。
(2)シートノック時の補助員はヘルメットを着用すること。なお、ユニフォームを着用した登録外の生徒（５名以内）を認める。
(3)ノッカーは、ユニフォームを着用する。

５．応　　援　(1)~~中学生にふさわしい応援をする。~~
(2)~~応援は攻撃側のチームが優先に行う。~~
※声を出しての応援やハイタッチなどの接触は行わない。また、スタンドではソーシャルディスタンスを確保して着席する。

６．用　　具　(1)マスコットバット、バットリング、鉄棒、公認球以外のボール等、試合で使用しないものの球場内への持ち込みを禁止する。
(2)手袋・ﾘｽﾄｶﾞｰﾄﾞは、原則として「白」または「黒」を主にした高校野球対応の手袋を使用する。
(3)ストッキングの形をしっかりと統一する。
(4)全日本軟式野球連盟公認マーク（J.S.B.B.）が完全に消えた用具は使用できない。
(5)捕手は全日本軟式野球連盟公認マーク（J.S.B.B.）が入った捕手用ヘルメット・マスク・スロートガード・プロテクター・レガースとファウルカップを使用すること。また、打者・走者・次打者・ベースコーチ・バットボーイは全日本軟式野球連盟公認マーク（J.S.B.B.）が入った両側にイヤーフラップ（内側にはスポンジ等）のついたヘルメットを使用すること。※2022 年度よりマスクの SG マーク義務化

７．試合のスピード化(1)ベースコーチ・打者・次打者の４名は攻撃前のミーティングには参加せず、所定の場所に移動すること。
(2)投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。
(3)捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
(4)次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。
(5)サイン交換は迅速に行うこと。打者はバッターボックス内でサインを見る。

８．そ　の　他　(1)チームの選手（監督・コーチ含む）は同色、同形のユニフォームを着用する。尚、監督・コーチのシューズについても同色とする。（シューズ･スパイクにおいて色の混在を認める。なお、高校野球対応のものとする）コーチ（教職員）の服装は平服（白を基調としたポロシャツ・同一の野球帽）とする。但しノックをする者はユニフォーム着用のこと。また、記録員はユニフォームか制服とする。
(2)選手交代は、監督が球審に告げること。
(3)球場内でのアップは、チーム統一のＴシャツでもよい。ただし、シートノックからは試合用ユニフォームとする。
(4)芝生保護のため各球場において正規のシートノック以外はスパイク以外で行うこと。
(5)試合中のアップ（キャッチボール）については２組（４名以内）とする。
(6)大会運営上、天候によっては場所を移動しての試合もあり得る。
(7)各チームのゴミは必ず責任を持って持ち帰る。最終試合の両チームは、ダッグアウト、スタンドを清掃する。
(8)投手が投球動作を開始したら、投手の動揺を誘うような声を発しない。